

10月 ほけんだよい

2022 年度 No. 7
聖星保育園

気持ちのよい秋晴れの下、園庭やお散歩に出かけることが多くなりました。栗の木をみつけてじっくり眺め、葉っぱの色の変化や落ち葉を踏んだ時の音の違い、手で触れた感触など秋だからこその発見があるようです。そして日々の遊びの中で目や耳などの五感を自然と養っています。

成長とともに秋の感じたもさまざまです。過ごしやすいこの季節に秋を探しに外へ出てみませんか。

9月の感染症
手足口病 1名
突発性発疹 1名



新型コロナウイルス感染症情報

9月12日のお手紙でもお伝えしましたが、保育園内でも新型コロナウイルスに感染した方が多くいました。半月以上が経ち、少しずつ落ち着いてきています。実例として「一日のみの発熱・微熱・熱はなくとも軽い咳や消化器症状（下痢・嘔吐）でも陽性のであった」「家での抗原検査が陰性でも病院でのPCR検査で陽性であった」ということがあります。要は『風邪と見分けがつかない』ということです。これからインフルエンザや嘔吐下痢症なども流行しやすい季節となります。子どもだけでなく大人も体調不良の症状がある場合は、慎重に無理せずに対応しましょう。

療養期間が10日→7日に短縮されました

療養期間の数え方は症状があった日を0日目として、翌日から7日間となります。再登園は8日目より可能となります。濃厚接触者の数え方は陽性の方と最後に接觸した日を0日目として、翌日から5日間となります。再登園は6日目より可能となります。新型コロナウイルスに感染または濃厚接触者になった場合のお休みの連絡は「発症日または最終接觸日」「いつまで休むか」もお伝えください。療養期間の延長やそのまま都合等でお休みする場合は再度ご連絡をいただけると助かります。



インフルエンザの予防接種がはじまります

2回の接種が必要

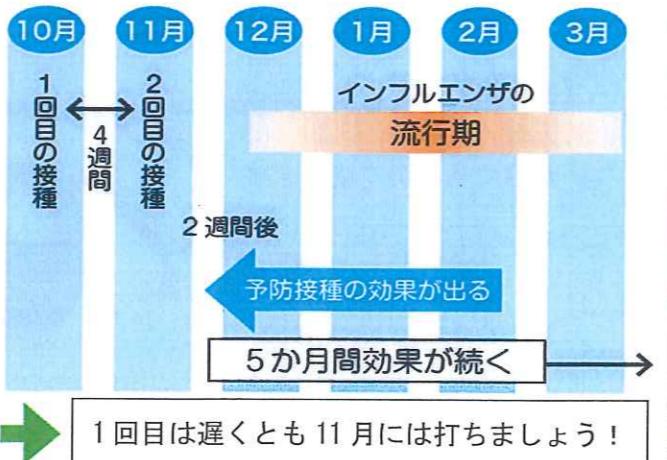
小さな子どもは免疫がつきにくいため、2回の接種が必要です。効果を十分に上げるために、1回目の接種と2回目の接種の間は4週間あけるといわれています。

効果が十分に出るのは2回目接種から約2週間

乳幼児は有効な免疫ができるのに2回目接種から2週間かかります。

効果は約5か月間持続する

インフルエンザの予防接種の効果は、約5か月。10月から接種すれば、流行の始まりからしっかりとカバーできます。



涙がでるのは、なんのため??

目に酸素や栄養を届ける
目の角膜には血管がないため、かわりに涙が酸素や栄養を届けます。

感染を防ぐ
目に入った異物は涙で洗い流されます。また、涙には細菌の感染を防ぐ殺菌作用もあります。

目の乾燥を防ぐ
目の表面をうるおして、刺激から目をまめています。

目の表面を滑らかにする
目の表面が涙で滑らかになると、光が正しく屈折して、ものを鮮明に見ることができます。

十月十日は 目の愛護デー

十月十日は



お子さまはいかがですか？

子どもの目は毎日発達していて、両目の視力機能は6歳までにほぼ完成するといわれています。その後に視力が低下するのは、幼い頃の姿勢や体の動かしが関係しているそうです。自然の中で十分に遊ばせ、外の景色をたくさん見せてお子さまの視力を育てていきましょう。

- ・テレビや絵本に近づいてみる
- ・明るい戸外でまぶしがる
- ・目を細めて見る
- ・上目遣いに物を見る
- ・目つきが悪い、目が寄っている
- ・見るときに首を曲げたり、頭を傾けたりする

このような症状がみられると斜視や弱視の可能性が考えられます。子どもは視力が悪いことを自覚できないため、上記のような症状がないか普段から気にしてみてください。

どんな働きをしているのかな？

【まゆ毛】
片方に約650本。
汗が目に入るのを防ぎます。

【まつ毛】
片方の数は50~100本。
ゴミが入るのを防ぎ、強い光をさえぎります。

【まぶた】
まばたきの回数は1分間に15~20回
まばたきで目に涙をゆきわらせます。

【涙】
1日に目薬20~30滴分
目の表面をうるおして、細菌などの感染を防ぎます。
目に栄養も届けます。